

## 〈第24回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会〉

## 開 催 挨 拶

EICA 会長 清 水 芳 久

皆様、こんにちは。

私の EICA とのかかわりは、2002 年に事務局長に指名されたのが始まりでした。それまで EICA の方々とは全く面識が無かったのですが、事務局長への就任にあたり、当時の役員の皆様が、滋賀県の大津市にありますが私の研究室まで、わざわざお越し頂き、2 時間ほど EICA の話題を中心として、楽しいお話をさせて頂いた思い出があります。

EICA の皆様は、その当時も今も、委員・評議員の方の殆どが民間の企業に所属しておられる方です。多分これが他の学会にはあまり見られない EICA の大きな特徴だと思います。

本日と明日の両日に渡り第 24 回 EICA 研究発表会を横浜市さまのご厚意によりここ開港記念会館にて開催させて頂きます。EICA の会員の多くの皆様は、研究発表会の時のみにしか御参加頂けない方が多いと思います。EICA の活動の大きな 2 つの柱の一つは、編集委員会を中心にやって頂いている機関誌の発行です。年 3 回 4 号を継続的に発行しております。そして一つの柱は総会と研究発表会です。こちらは合同委員会（総務委員会と企画委員会）を中心に企画・運営を頂いています。本日と明日は、その一つの研究発表会になります。

このような壇上に立ちますとどうしても固い話になってしまいますが、企業の方々同士で、また最近 EICA の会員として増えてきております行政の方々も交えて、もちろん我々学の分野の者もおりますので、この 3 者プラスアルファのメンバーで良いコミュニケーションを取って頂ければと思います。

イギリスで元々始まった当初は、学会はサロニックの意味があったと思います。学会は興味を同じくする者同士のコミュニケーションの場として始まったと記憶しております。最近は多様なコミュニケーションの手段があります。メールを使います。ツイッターを使います。フェイスブックを使います。いろいろな IT を利用した方法が盛んです。古いものが廃れて行くことがあるかも知れませんが、そしてこれからは他の様々な方法が次々生まれて来るものと思います。一方で便利な世の中にはなりましたが、最近では便利さに頼りきってしまっているためか、どうもコミュニケーションの中身が浅くなっているような気がします。この研究発表会では、もう一度ほんらいのコミュニケーションに立ち返って、せっかくの機会ですから顔と顔を突き合せて、目と目を見合ってより深い良いコミュニケー



ションを取って頂ければと思います。

日本で生活していると、民族がそんなに多くはないものですから、多くを語らなくとも、お互いに何か解ったような気になってしまうことが多々あります。これから EICA が実施していかなければいけないことを考えますと、日本国内での仕事は将来的には限られてくることになりますから、やはり海外に、それもアジアに目を向けて行かなければならない状況です。海外では、当然のことながら文化が違います。慣習が違います。歴史が違います。当然価値観が違って、考え方が違います。だからこそコミュニケーションを取らなくてはいけません。どうしても日本の方々は一時的になりがちなのかも知れませんが、解らないからこそ積極的にコミュニケーションしてゆかなければならない現状です。

この研究発表会は、そういったコミュニケーションをとるための場として頂ければと思います。できるだけ楽しく今日と明日の両日を過ごして頂ければと思います。

ちなみに、さきほど司会者の方が「もう直ぐ開会させて頂きます。皆様ご着席下さい」と言われた時に私はステージの上の方を見ていました。左右の時計を見ってみました。左右で少し時間がずれているのですね。こんな些細なことも話題として楽しみながら、当然研究のこと、仕事のことをたくさん話してもらうことが重要だと思います。そこから新しい友人関係等が生まれてくればと思います。

本日は EICA の研究発表会にお集まり頂きましてありがとうございます。今日と明日の二日間をどうぞ宜しくお願い致します。ありがとうございました。